

なかづらかきのき
奈良市中貫町 **中貫柿ノ木遺跡**

2008年7月12日
奈良県立橿原考古学研究所
<http://www.kashikoken.jp>

はじめに

これまでの田原地区の圃場整備事業では、事前の発掘調査によって、縄文時代～鎌倉・室町時代のさまざまな遺跡が見つかっています。

今回の調査では、縄文時代のもと考えられるドングリピット(ドングリの貯蔵穴)と、その穴の中のドングリを確認することができました。このドングリは、当時の食料として採集されたもので、種類はアカガシのなかまと思われます。

調査地の地名が中貫町小字柿ノ木であることから、中貫柿ノ木遺跡と命名しました。

調査の成果

縄文時代のもと考えられるドングリピット(ドングリの貯蔵穴)を確認したのは、東西に続く谷地形の北斜面です。この場所は地下水位が比較的高く、また常に地下水が流れている環境にあります。

ドングリピットはそのような場所を選んで作られており、穴の大きさは直径約45cmほどあります。確認できたドングリの大きさはすべて同じで、長さ1.5cmほどです。穴の底には木の枝や葉などを敷き詰めるように入れているようです。

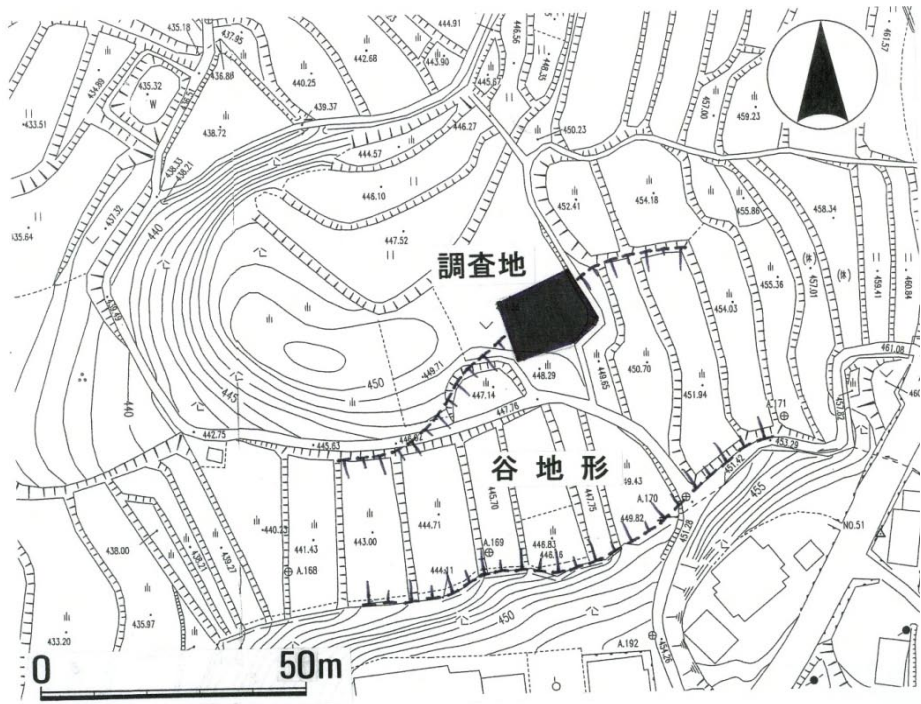
そのほかにも空になった穴をいくつか確認し、本来は複数のドングリピットがここにあったと考えられます。したがって縄文時代のこの場所は、採集したドングリを貯蔵穴に蓄えておくという特別な場所であったと考えられます。

しかし、縄文時代のある時の洪水によって、この場所は埋まってしまったことも、発掘調査によって確認することができました。この洪水が原因となって、縄文時代の人たちは採集したドングリを探し出して食べることができず、穴の中に埋まったままになっていたようです。

まとめ

今回は縄文時代とみられる遺跡が見つかり、当時のドングリピットを確認することができました。穴の中にドングリが残っている例は奈良県内で6例目です。田原地区の縄文時代では、須山町でもドングリピットが見つかっています。そのほかにも縄文土器や石器が田原地区で多く見つかっていますが、縄文時代の遺跡がまとまって見つかることは、県内では少なく、奈良県の縄文時代と当時の食料事情を知る上で、田原地区は大変重要な地域であるといえます。

今回の調査は、中貫町・大野町をはじめとする周辺地区の皆様、県農林部耕地課、北部農林振興事務所のご理解・ご協力を得て実施しました。





ドングリピット検出状況